

# 市響

第422回「交響楽の午後」  
〈市響協会創立70周年シリーズ〉



2022.7.10(日)

14:00開演(13:30開場)

市川市文化会館大ホール

(JR総武線・本八幡駅下車)

入場無料 未就学児入場不可

ご来場時のマスク着用のお願い 新型コロナウイルス感染対策のため、ご来場される場合は、必ずマスクを着用いただきますよう、また37.5℃以上の発熱、体調の優れない方はご遠慮いただきますよう、ご協力をお願いいたします。感染拡大防止にご理解とご協力をお願いいたします。

お問い合わせ : main@ichikyo.org 市響ホームページ : <http://ichikyo.org/>

主催: 市川市交響楽団協会 共催: 市川市 協力: 山崎製パン株式会社 株式会社全日警 後援: 千葉交響楽団協会

# 本日のプログラム

## 第422回「交響楽の午後」〈市響協会創立70周年シリーズ〉

### バッハ／管弦楽組曲第3番 BWV1068

- I 序曲
- II エール
- III ガヴォット
- IV ブーレ
- V ジーグ

### ブラームス／ネニエ（哀悼歌）作品82

♪ 休憩（20分）

### マーラー／「大地の歌」

- I 「大地の哀愁に寄せる酒の歌」テノール独唱
- II 「秋に寂しき者」アルト独唱
- III 「青春について」テノール独唱
- IV 「美について」アルト独唱
- V 「春に酔える者」テノール独唱
- VI 「告別」アルト独唱

## プロフィール



指揮：三原明人（みはら・あきひと）

1961年東京生まれ。東京芸術大学でヴィオラを専攻、その後桐朋学園とウィーン国立音楽大学で指揮法を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマン各氏に師事。さらにイタリアでゲンナジ・ロジェストヴェンスキイ、モーシェ・アツモン、ドイツでヘリベルト・バイセル各氏に師事。1989年オランダで行われた「第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」第2位、1993年ドイツ・ハレで開かれた若手指揮者育成のための「DIRIGENTEN FORUM」で最優秀ファイナリスト、1996年ポルトガルで行なわれた「第8回リスボン国際青年指揮者コンクール」第3位（1位なし）入賞。

1989/1990のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタントを務め、1991年よりオペラ作品などで外山雄三、広上淳一各氏のアシスタント、1996年ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務めるなど研鑽を積みながら、ヨーロッパと日本を中心に活動。これまでにオランダ放送フィル、ドイツ・ハレ国立フィル、ブタベストMAV響、リスボン・メトロポリタン管、フィンランド・クオピオ響、ブルガリアの名門ソフィア・フィル、読売日響、東京都響、日本フィル、東京フィル、東京交響楽団、札幌交響楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィル、名古屋フィル、オーケストラアンサンブル金沢、大阪センチュリー響、広島交響楽団、俊成ウインドなどを指揮して、コンサート、テレビ、ラジオなどへの放送録音、CD・映画音楽製作など各方面から高い評価を得ている。特に京都フィル定期では、ビニヤオのマリンバ協奏曲日本初演のほか、武満の「トゥリー・ライン」、シェーンベルクの室内交響曲を指揮し、新聞ほか各誌で絶賛された。現在は東京音楽大学指揮科講師及び同付属高校講師として、後進の育成にも務めている。

中学～高校時代に市響ジュニアオーケストラ創設時の初代コンサートマスターを務め、故村上正治氏の薰陶を受ける。芸大卒業まで市響団員としてヴァイオリン及びヴィオラで演奏に参加、その後指揮者として何度も市響の指揮台に立つなど、市響とはよく深く関わっている。



### アルト：菅有美子（かん・ゆみこ）

東京藝術大学卒業、同大学院修了。第62回日本音楽コンクール第2位入賞。

「ラインの黄金」フロスヒルデ役で二期会オペラデビュー、「ばらの騎士」オクタヴィアン役でNHKニューイヤーオペラコンサートに出演。その後、二期会「フィガロの結婚」ケルビーノ、新国立劇場・二期会共催「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル、「真夏の夜の夢」オペロン、「フィレンツェの悲劇」ビアンカに出演のほか、「カルメン」タイトルロール、「アルジェのイタリア女」イザベラ、「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントウツア、またR.シュトラウス、ワーグナー等のオペラ作品にも数多く出演している。

演奏会ではN響定期「エレクトラ」、新日本フィル「火刑台上的ジャンヌ・ダルク」のほか、東京フィル・オペラコンセルタンテシリーズにも度々出演。宗教曲ではモーツアルト、ヴェルディ「レクイエム」、バッハ「受難曲」「ミサ曲」、またベートーヴェン「第九」、マーラー「千人の交響曲」「復活」などのソリストとしてオーケストラとの共演は枚挙に暇がない。艶のある深い声質と優美な舞台姿が大きな魅力である。

東京音楽大学教授、二期会会員。



### テノール：行天祥晃（ぎょうてん・よしあき）

東京藝術大学卒業、同大学院修了。イタリア政府給費、ロータリー財団奨学生として、イタリアのG.ニコリーニ国立音楽院に留学。イタリア・ス皮レート歌劇場、及び新国立劇場にてヴェルディの処女作《オベルト サン・ボニファーチオ伯爵》リッカルド役(本邦初演)を好演、両国での公演成功に貢献した。またヘンデル『メサイア』、ハイドン『ネルソン・ミサ』『四季』『天地創造』、モーツアルト『戴冠ミサ』『レクイエム』、ベートーヴェン『幻想合唱曲』『第九』、メンデルスゾーン『贊歌』『エリア』、ドヴォルジャーク『スター・バト・マーテル』、ヴェルディ『レクイエム』、マーラー『大地の歌』等のソリストとして、東京フィル、東京交響楽団の他、海外オーケストラとの共演など数多くの演奏会に出演。コロナ禍の中、大規模リモートにより開催された、サントリー「一万人の第九」(佐渡裕指揮・大阪城ホール)には2020、2021年と2年連続してソリストとして出演。また、テレビCM録音「ネスカフェ・カプチーノ」を歌うなど、幅広い演奏活動を行っている。大分県立芸術文化短期大学准教授、尚美学園大学講師、大分二期会理事長。東京二期会、東京室内歌劇場各会員。第64回～全日本学生音楽コンクール北九州大会、及び全国大会声楽部門審査員。

## 市川交響楽団協会（市川交響楽団・市川混声合唱団・行徳混声合唱団）

市川交響楽団協会は昭和26年（1951）7月に発足し、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う文化団体です。しかも音楽の中で最も強力に共鳴感を起させるシンフォニックな楽団の育成と、その演奏活動の実践を容易ならしめるための社会教育団体でありまして、利益を得る団体でも、ただ自分中心の趣味だけを満足させる同好会でもありません。

自分達のクラシック音楽を表現する喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体として、地元市川市を本拠地に演奏活動を行っております。当協会は、市川交響楽団、市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラ、行徳混声合唱団の演奏5団体および市響ジュニア育成会によって組織されております。

市川交響楽団は昭和55年（1980）度のサントリー地域文化賞をサントリー文化財団より受賞、協会は昭和58年（1983）11月に文部大臣地域文化功労賞を受賞しております。

平成21年（2009）2月にはこれまでの60年近くにわたる演奏活動と、今後の永続的な展開を期待され、市民の推薦による市川市民芸術文化奨励賞を受賞しました。

「市川交響楽団協会」は平成30年（2018）11月に商標登録を行いました。（登録第6103031号）

# プログラムノート

聴くにあたって演奏中に逐一、歌詞を追っても間に合わないので、開演前、休憩中に対訳を一読してその気分で音楽に浸った方が楽しめます

## バッハ/管弦楽組曲第3番 BWV1068

バッハを代表とするバロック時代の管弦楽曲の演奏には20世紀から現在に至るまで、4つのフェーズがあると言われています。

20世紀の初めマーラーがバッハの管弦楽組曲2番と3番を自由に組み合わせた編曲版を、ハーティーがヘンデルの「水上の音楽」や「王宮の花火の音楽」の編曲版を作ったように、この時代は指揮者が自身の解釈による変更とその当時の楽譜解釈で演奏がされていました。

第2次大戦後では、楽譜の変更はほんの僅かで節度を持った程度のものとなりましたが、楽譜解釈の多くは現代風のものでした。巨匠等の数多くの録音を今でも聴くことができます。

そんな中「出来る限り当時の作曲家が作った作品を当時の演奏で聴かせたい」と、作曲された当時の楽器やそのレプリカを、当時の演奏ピッチで用いて、歴史的楽譜解釈と奏法を学術的に研究し再現した古楽器オーケストラが出現してきました。当時の聴衆はその聴きなれないサウンドと解釈に賛否両論でしたが、その魅力が徐々に認められるようになり「バロック音楽は古楽器演奏以外は認めない」という人も出るほどとなり、一時バロック音楽が現代オーケストラのレパートリーから消えそうになりました。

しかし今では、古楽器演奏家たちの努力はクラシック音楽の世界に定着し、古楽器オーケストラの指揮者がモダンオーケストラの指揮台に立つだけでなく、メンバーの多くが歴史的楽譜解釈と奏法を学び習得することで、バロックの多くの名曲が現代オーケストラのレパートリーに復活したのです。

I.「序曲」はゆっくり-速い-ゆっくりと3部形式のフランス風序曲です。II.「エール」はみなさんよくご存知の「G線上のアリア」として知られている曲です。G線とはヴァイオリンの一番低い弦で、ヴァイオリン独奏に編曲されたものが、G線だけで弾かれるからで、今回の演奏とは関係ありません。III.「ガヴォット」は親しみやすく華やかなトランペットが印象的な3部形式です。IV.「ブーレ」は2拍子V.「ジーグ」8分の6拍子の祝祭的なサウンドで、市響は今年になってヤマザキフレンドシップコンサート、市川市文化会館のリニューアル式典でも演奏し今回3回目です。

## ブラームス/ネニエ(哀悼歌) 作品82

訳詞(詩:シラー)

美しき者とて滅びねばならぬ!それこそが人々と神々を支配する掟

地獄のゼウスの青銅の心臓を動かすことはない

〈第1の挿話〉オルフェウスとエウリディチェの神話

かつてたった一度だけ愛がその闇の主の心を溶かしたこと

はあったが

出口にたどり着かぬうちに、厳しくも、彼はその贈り物を取り返したのだ

〈第2の挿話〉女神アフロディテと人間の美少年アドニスの神話

アフロディテさえも　かの美しき少年の傷を癒すことはないであろう

その華奢な体をかの猪が残酷に引き裂きしものを

〈第3の挿話〉勇者アキレスの死を嘆く母テティス(海神ネレウスの娘)

神々の英雄をも　その不死の母が救うことはなかったのだ  
スケイアの門にて倒れ、彼が死の運命を受け入れしときにも  
けれども彼女は海底よりネレウスの娘たちと共に上がり

偉大な息子のために嘆きの歌を歌ったのだ

見よ!神々が泣いている、女神たちも皆泣いている

美しきものが色あせることに完全なるものも死にゆくことに  
愛する者の口より出づる嘆きの歌は素晴らしいものだ  
なぜなら凡人たちは音も立てずに冥界へと降りてゆくの  
だから

ブラームスが47歳の時、友人の画家フォイエルバッハの死をきっかけに書いた曲で、「ネニエ」はローマ神のネーニアに由来する語で、「葬送の歌」を意味します。

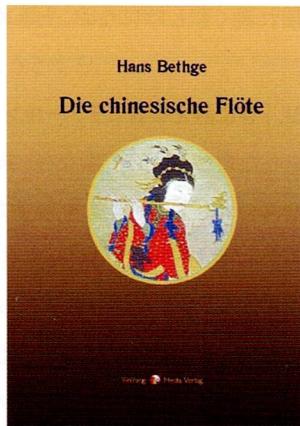
市響70周年記念として創設者の故村上正治先生とこれまでに市響の活動に貢献された多くの関係者の冥福を祈る意味でこの曲を選曲しました。

## マーラー/「大地の歌」

19世紀末ヨーロッパの芸術界では「死」をテーマとした作品が多く作られました。マーラーがこの曲の歌詞に採用したハンス・ベートゲが編んだ詩集『中国の笛』は、その世相と流行りのオリエンタリズムの影響で78,000部が売れたベストセラーで、R.シュトラウスやシェーンベルグも歌詞に採用しています。

作曲当時のマーラーは、長女の死、自身の心臓病、さらに歌劇場辞任で愛するウィーンから離れ渡米するという転機などが重なり、死をつよく意識したことが作曲の動機ともなったと想像することもできます。

以下各楽章ごとの訳詞を記載いたします。



### I. 「酒のみ歌、大地の悲嘆について」<テノール>

原詩：李白「悲歌行」

はやくも手招きしている、酒が、黄金の酒杯の中で、  
だがまだ飲まないでくれ、まず歌おう、私が君たちに一曲！  
この歌は、悲しみについてだが  
ぜひ咲笑となって君たちの心で鳴り響け。  
その悲しみが近づくと、  
荒れ果てる、庭が、心の、  
枯れて絶えてしまう、喜びが、歌声が。  
暗やみなのだ、生は、そして死は。  
あるじよ、この家の！  
君の酒蔵は蓄えでいっぱいだ、黄金の酒！  
こちらには、この琴、私のものだ！  
琴をかき鳴らす、そして盃を乾す、  
これらのこととは、たがいに調和する。  
なみなみと杯に酒、ちょうどよい時に  
それはずっと価値がある、全王国よりも、この大地の！  
暗やみなのだ、生は、そして死は！  
天空は青い、永遠に、そして大地は  
ずっと揺るぎなくあり、そして花が咲く、春には。  
君はだが、人間よ、どれだけ生きるのか、さて君よ？  
百年と許されていないのだ君が楽しむことは  
すべて優いがらくたで、この大地の！  
見ろ、そこを、下の方！

月明かりの中、墓の上に

うずくまる荒々しくも不気味な影。

猿だ！ 聞こえるか、その叫びが

切り裂き響く、甘い香りを、生命の！

いまこそ手にとれ、酒を！

いまこそその時だ、仲間よ！

干してくれ黄金の杯を底まで！

暗やみなのだ、生は、そして死は！

### II. 「秋に孤独な者」<アルト> 原詩：錢起「效古秋夜長」

秋の霧が波打つ、青々と湖の上を、

霜で覆われている、すべての草が：

こう思うでしょうか、芸術家が粉の翡翠を  
美しい草花の上に振り撒いたかのようだと。

甘い香りは花から消え去っている：

冷たい風が、曲げるその茎を下向きに。

やがてうつろい、萎れた、黄金の一葉は、  
蓮の花の葉は水の上を、流れて行く。

私の心は疲れています。

私の小さな灯は消えてしまう、パチパチ音を立てて、  
それは誘うのです、私を眠りへと。

私は向かう、あなたのとへ、寛ぐやすらぎの場所！

そう、与えてください、私にやすらぎを、

私は元気を取り戻す必要があるのです！

私は涙します、さめざめと、私の孤独のうちに。

秋は、私の心の中で続いている、あまりに長く。

愛の太陽よ、あなたはもう輝くことはないのですか、  
私の苦い涙を、優しく乾かしてくれることは？

### III. 「青春について」<テノール> 原詩：李白「宴陶家亭子」

中ほどあたり、小さな池に

立ってる東屋、つくりは緑

それから真っ白陶磁から。

あたかも背中か、虎の

弧になる橋のつくりは翡翠

先には東屋、向こう側。

小屋には座る、友だちが、

きれいに着飾り、飲み、語る、

多くは綴り、詩をものす。

彼らの絹地の袖が滑って

背中に、彼らの絹地の冠は

座るよ愉快に首筋深く。

その小さな池の静かな

水の面に見える全てが

奇妙な、鏡に映った姿。

すべてが頭上だ逆立ちしてゐる

立てる東屋、つくりは縁

それから真っ白陶磁から；

あたかも半月みたいな橋で、

逆さだ、その弧は。友だちが、

きれいに着飾り、飲み、語る。

#### IV. 「美について」<アルト> 原詩：李白「採蓮曲」

若い乙女たちが摘んでいる、花を、

摘んでいる、蓮の花を、岸辺のあたりで。

茂みと葉と葉の間に座り、

集める、草花を、その膝に、そして呼びあう

互いにふざけて。

金色の太陽がそっと包む、その姿を、

映し出す、彼女たちを、きらめく水の上に。

太陽は映し出す、そのほっそりした手足を、

その甘い瞳を、その上に、

そして西風の精が持ち上げる、甘えるように

その布地を、彼女たちの袖の、

運んでいく、魔法の香りを、風に乗せて。

おや見て、なんと駆け回る美しい少年たち

岸辺の向こうで駿馬に乗って、

遠くで輝く、陽光のように；

見る間に枝の間、緑の柳の

飛ばしてくる、少壯の一群がこちらへ！

一人の馬が陽気にいななき、

また怯え、またどっと行き、

花の上、草の上、行き交う蹄、

踏みつぶす急突進し倒れた花、

ハイ！靡かす夢中でたてがみ、

湯気が熱く鼻の穴から！

金色の太陽がそっと包む、その姿を、

映し出す、彼女たちを、きらめく水の上に。

そして中でも最も美しい若い乙女が送る

長い眼差しを彼に、憧れを込めて。

彼女の澄ました態度は、お芝居にすぎない。

きらめきの中に、彼女の大きな瞳の、

暗やみの中に、彼女の熱い眼差しの

揺れ動く悲しげになお、ときめきが、彼女の心の。

#### V. 「春に酔える者」<テノール> 原詩：李白「春日醉起言志」

もしただの夢だつてんなら、人生が、

なんでわざわざ、努力や苦労だ？

おれは飲むぞ、これ以上無理ってここまで、

まるまる、愛おしい一日ずーっとな！

それでもしおれがこれ以上飲めねえってなったら、

だって喉も心もいーっぱいだぜ、

じゃあ千鳥足で、おれはうちの戸口へ

で眠る、素晴らしいー！

何か聞こえる、おれのお目覚めに？ 聞いてみな！

いっぽき鳥さん歌ってる、木の上で。

おれはお尋ね鳥さんに、もう春なんでしょうか、

おれにとっしゃ、まるで夢ん中。

鳥さんさえずってる：そうよ！

春はそこよ、やってきたのよ、一夜にして！

ううんと目を凝らし聞き耳立てたぞおれは、

鳥さん歌ってる、で笑ってら！

おれは満たす自分で、杯を一から

で飲み干す、そいつの底までな

で歌う、お月さんが輝くまで

まくろなお空でな！

それでもしおれがこれ以上飲めねえってなったら、

それでもしおれがこれ以上歌えねえってなったら、

じゃあ眠ろう、おれは、もういっかい、

何か関係あんのかおれといつたい春なんて！？

ほっとけおれを酔わしといてくれ！

#### VI. 「別れ」<アルト>

\*第1部～第3部は続けて演奏します

##### 第1部 原詩：孟浩然「宿業師山房待丁大不至」

太陽は別れていく、山々のかげに。

全ての谷間にひろがる、夕べが下へ

影とともに、冷気に満ちて。

おお見よ！ 銀の小舟のように浮かぶ

月が青い天の海をのぼって。

私は感じる、かすかな風が吹くのを

暗い松のかげで！

小川は歌う、快い響きに満ち暗やみを通り。

花は青白く見える、寂光の中で。  
 大地は息づく、やすらぎと眠りに満ちて。  
 すべての憧れが、今や夢を見ようとする、  
 疲れた人々は、家路につく、  
 眠りの中で、忘れてしまった幸せを  
 そして若さを新たに学ぶために！  
 鳥はうずくまる、静かに自分たちの枝で。  
 世界は眠りにつく！  
 風が吹く、冷たく私の松の陰で。  
 私はここに佇み、そして待ちわびる、私の友を。  
 私は待わびる、彼を、最後の惜別の辞のために。  
 私は切に望む、おお友よ、君の傍らで  
 美しさを、この夕べの、楽しむことを。  
 どこにいる君は？ 君は私を長く独りにしている！  
 私は歩く、あちらこちらと、私の琴を持って  
 道を、そこからは柔らかな草が膨らんでいる。  
 おお美しさ！ おお永遠の愛、生命に酔いしれた世界！

## 第2部 〈オーケストラのみ 4分の4拍子〉

## 第3部 原詩：王維「送別」

彼は馬から降りそして差し出した、かれに酒を  
 別れる。彼は尋ねた、どこへかれは行くのかを  
 そしてまたなぜ、そうあらねばならないのかを。  
 かれは語った、その声はくぐもっていた：  
 君よ、私の友よ、  
 私にこの世界で、幸せは微笑まなかった！  
 どこに私は行く？ 私は行く、私はさまよう山の中を。  
 私はさがす、やすらぎを、私の孤独な心のために！  
 私は歩く、ふるさとへ、私の場所へ！

私は二度とすまい、遠くへの逍遙は。  
 静かだ私の心は、そして待つ、そのときを！  
 愛しい大地の、至るところ  
 花が咲き春になりそして緑になる新しく！  
 至るところ、そして永遠に、青く光る遠い彼方、  
 永遠に、永遠に…

市川交響楽団協会はこの2年余のコロナ禍での私たちの不安と葛藤を「Ewig, Ewig」（永遠に！永遠！）と昇華させたく思います。



◀創設者の故村上正治先生  
2003年4月25日召天

▼S26.11.25 第一回「交響曲の夕べ」  
真間小にて



## 次回演奏会のお知らせ

### 第425回市響「ファミリー交響楽」(入場無料)

令和4年(2022)12月4日(日) 市川市文化会館大ホール

指揮 茂木大輔 管弦楽 市川交響楽団  
 クラリネット独奏 野田祐介(東京音楽大学 准教授) \*

マスネ/組曲「絵のような風景」(管弦楽組曲第4番)  
 ドビュッシー/クラリネットと管弦楽のための狂詩曲第1番\*  
 ウェーバー/クラリネットと管弦楽のための小協奏曲\*  
 ハチャトリアン/バレエ音楽「ガイヌ」組曲より

## 市川交響楽団協会創立から20周年までの歩み 60周年記念より

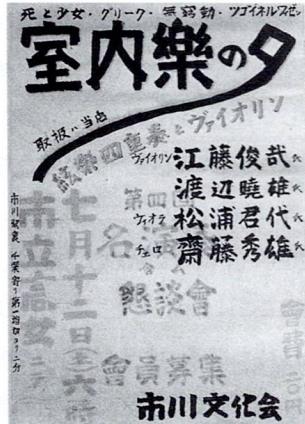
### 昭和20年（1945）〈胎動〉

12.15 市川文化会発足 市川小

会長：浮谷竹次郎 理事：藤野舜正 古賀米吉 保々誠次郎 中村勝五郎、

井上平吉 高橋統間 渋谷寿光 作田敏世 音楽部長：村上正治

「出演者のお札には入り難い「お米」3升を差し上げ喜ばれたものです。」  
(50周年記念誌、村上正治氏遺稿「見えざる大きな力に支えられた56年間」より)



### 昭和24年（1949）〈誕生〉

4.4 市川文化会合唱団結成 村上正治宅

### 昭和26年（1951）〈誕生〉

2.11 市川交響楽団結成 宮田小（旧市川高女）

7.10 市川文化会合唱団を市川混声合唱団と改称 自然幼稚園

7.20 市川交響楽団協会発足 宮田小

名誉会長：浮谷竹次郎 副会長：村上正治

理事：古賀米吉 渋谷寿光 藤野舜正 島津新治

監事：川崎千春 糸川英夫

11.25 第1回市響市混 市川文化祭「交響楽の夕べ」 真間小

指揮：宮沢政美、大橋博、秋山日出夫、村上正治、解説：大木正興

I 弦楽合奏 才能教育ヴァイオリン教室児童

バッハ「メヌエット」「ガボット」ゴセック「ガボット」

ヘンデル「ブーレ」シユーマン「二人の郷弾兵」

II 管弦楽 「エグモント」序曲

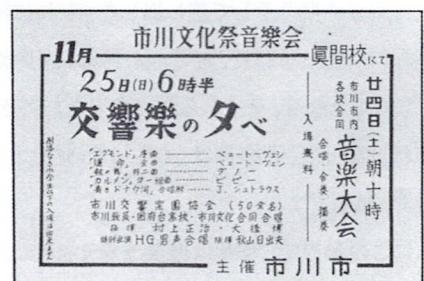
III 交響楽 ベートーベン交響曲第5番「運命」

IV 男声合唱 H.G.メンネルコール

中村仁策「山の朝」山田耕作「この道」グノー「剣の舞」

V 管弦楽 ビゼー「カルメン」第1組曲

J. シュトラウス「美しき青きドナウ」合唱付



S26年11月25日 第1回交響楽の夕 真間小学校  
コントラバス江口朝彦芸大助教授(右奥学生服)も。



S30年6月19日 第12回演奏会の為の練習風景  
真間小学校 ピアノ、深澤亮子さん（少女時代）



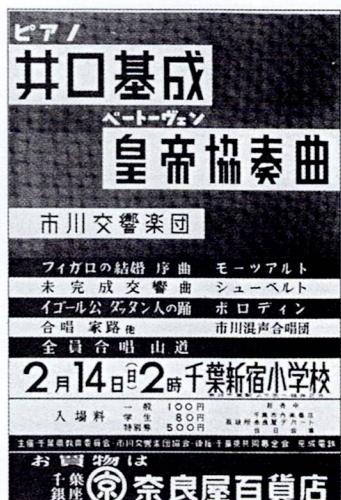
S58年 文部大臣地域文化功労賞受賞記念コンサートで  
深澤亮子さんとリストのピアノ協奏曲を終了した風景

「当時は千葉県にコントラバスは1台もありませんでしたので、市響で買っていただいて、それをお借りして練習し、そのうち芸大へ何となく入ったというわけです。」(30周年記念誌「わが青春の市響」より)

## 昭和35年（1960）〈10周年〉

- 4.10 〈誕生〉市川交響吹奏楽団 結成 市川一中  
 7.24 第34回市響「10周年記念演奏会」市混 市吹 和洋女子大  
 指揮：大高義人、村上正治  
 ベートーベン 交響曲第1番  
 ワルトトイフェル「エスパーナ」、J.シュトラウス「雷鳴と稻妻」  
 モーツアルト「ヴァイオリン協奏曲」独奏：山岡耕作、伴奏：中沢和子

独奏の山岡耕作氏は現在東京藝術大学名誉教授、著書に「最新ヴァイオリン音階教本」などがある。



この年2月には、巨匠井口基成氏との共演も。井口氏はこの翌々年、第1回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールに審査員として招聘されている。



S 40年6月27日 館山北条小学校演奏会の帰途  
富津岬にてバス脱輪あわや転落!!



S 43年6月23日  
第73回宮沢明子さん ピアノ協奏曲 市川市民会館



S 43年12月1日 第75回 市川市民会館 故林リリ子さん

## 昭和44年（1969）

- 9.14 第79回市響「合唱のタベ」  
 市川混声合唱団20周年記念演奏会 市川市民会館  
 指揮：村上正治  
 世界の名曲、男声合唱、山田耕作作品集合唱傑作集 伴奏：横田光代

## 昭和46年（1971）〈20周年〉

- 12.5 第90回市響創立20周年記念「第九交響曲のタベ」 市川市民会館  
 指揮：守谷弘、早川正昭 演奏：市響、市吹、市混  
 バッハ「トッカータとフーガ」  
 ベートーベン 交響曲第9番「合唱」  
 ソプラノ：小川裕子、アルト：安斎恭子  
 テナー：布施隆治、バリトン：宮本昭太



## 本日の出演者

### 市川混声合唱団・行徳混声合唱団

【ソプラノ】	【アルト】	【テノール】	【バス】	【合唱指揮】
阿 部 都志子	徳 永 京 子	井 山 ひとみ	加 藤 芳 明	石 井 省 利 二 秋
石 原 友 子	中 澤 冬 里	小 林 美 江 子	川 喜 田 大 亮	井 山 本 利 一
岩 崎 佳 代 子	中 野 か よ	桑 村 和 子	久 米 英 廣	岡 木 越 慎 憲
大 坂 正 美	並 木 美 智 子	佐 藤 和 子	小 林 俊 広	木 城 戸 要 輝
神 家 満 美 子	橋 本 晴 美	篠 田 妙 子	中 川 保 典	戸 篠 田 平 荘
亀 尾 真 理	松 本 孝 子	土 井 詢 子	名 倉 秀 治	要 田 伸 衛
川 又 京 子	松 本 芳 枝	内 藤 富 士 子	中 澤 一 紀	匡 野 平 邦
木 越 美 知 子	山 口 美 和 子	西 井 玲 子	松 丸 悟	功 古 畑 功
木 附 利 枝 子		野 瀬 富 美 子		一 渡 辺 功 一
小 林 朋 子		原 山 一 枝		
庄 司 映 路 子		松 波 圭 子		
		安 田 瞳 子		
		横 塚 英 子		
		渡 辺 和 子		

### 市川交響楽団

【コンサートミストレス】	溝 田 範 子	村 上 信 乃	【ホルン】	【ハープ】
立 田 祥 子	武 藤 敦 子		井 村 公 子	大 木 理 恵
		【フルート】	木 下 泰 斗	佐 藤 理 絵 子
【第1ヴァイオリン】	【ヴィオラ】	秋 山 愛 美	鳴 村 恒 夫	【マンドリン】
石 崎 俊 信	石 本 恵 理	佐 藤 洋 行	武 井 綾 香	山 室 繁 央
大 橋 一 郎	内 田 綾 美	徳 重 京 子	林 田 朋 子	
大 橋 か お る	園 田 陽 子	二 木 陽 子		
皆 合 愛 子	高 橋 陽 介		【トランペット】	【チェレスター】
菅 原 夕	谷 口 善 樹	【オーボエ】	大 川 富 雄	和 田 英 恵
佐 分 利 幸 江	奈 良 林 弘 子	白 木 広 美	田 崎 真 二	
萩 原 詩 織	本 郷 尚 子	二 村 直 子	新 井 本 昌 宏	【チェンバロ】
秦 一 宜	星 乘 昭	古 澤 恵 子		遠 藤 由 紀 子
松 林 俊		本 間 広 樹	【トロンボーン】	
山 本 芳 功	【チェロ】		石 黒 弘 道	
渡 辺 み ど り	泉 谷 良 枝	【クラリネット】	藤 平 一 仁	
渡 辺 惟	岩 田 啓 子	秋 永 直 美	藪 崎 裕 至	
	倉 澤 倫 子	井 垣 貴 嗣		
【第2ヴァイオリン】	倉 澤 由 和	時 田 雄	【チューバ】	
岩 田 徳 子	中 村 公 一	半 藤 嗣 人	渡 邊 鐵 雅	
桑 原 啓 輔	日 澤 優	八 木 良 子		
佐 藤 薫	福 原 耕 二		【打楽器】	
滝 泽 葉 子	八 重 横 妙 子	【ファゴット】	小 川 敏 弘	
富 田 八 江 子		井 垣 葉 子	鈴 木 充	
中 野 さ ゆ り	【コントラバス】	遠 藤 由 紀 子	田 中 康 信	
服 部 恵 子	池 田 和 正	金 坂 哲	都 筑 裕	
早 川 貴 子	上 山 優 子	山 内 静	時 田 裕	
細 貝 春	小 林 真 弓		和 田 英 恵	
牧 田 太 郎	番 場 仙 嘉			



ホームセキュリティの全日警

お見積りは  
無料!

お問い合わせ、お見積り・ご相談・資料のご請求は  
ホームページまたは、フリーダイヤルから。

**www.zennikkei.co.jp/hs/**

**0120-87-7575**



www.yamazakipan.co.jp



いつも、  
そばにあるおいしさ。

大切な人と食卓を囲む時。  
一人で元気を出したい時。  
ほっとしたい時。

みなさまのおいしい笑顔の  
そばにあること。  
そのおいしさを、  
毎日お届けすること。

私たちは、食を通じてみなさまに、  
安心をお届けします。  
これまでも、これからも。  
ヤマザキです。

